

第1回南城市地域交通会議 議事要旨

日時：平成26年5月21日(水) 14:00～16:00

場所：南城市役所 2F 玉城農村改善センター ホール

< 出席者 >

団体名等	氏名	備考
南城市	座波 一	会長
琉球大学工学部環境建設工学科	神谷 大介	副会長
沖縄総合事務局 運輸部 企画室	小野 協子	
沖縄総合事務局 運輸部 陸上交通課	古堅 宗安	
沖縄県 企画部 交通政策課	嘉数 登	
沖縄総合事務局 南部国道事務所	照屋 悟	
沖縄県 (南部土木事務所)	吉田 繁	
一般社団法人 沖縄県バス協会	慶田 佳春	
一般社団法人 沖縄県ハイヤー・タクシー協会	津波古 修	
私鉄沖縄県労働組合連合会	當間 正秀	
沖縄バス株式会社	親川 武司	
株式会社琉球バス交通	大城 幸和	代理
東陽バス株式会社	普久原 朝啓	
合名会社 山一交通	安波根 直義	代理
南城市老人クラブ連合会	金城 文雄	代理
南城市民生委員児童委員連絡協議会	大城 宏光	
南城市区長会	新城 辰夫	

< 議 事 要 旨 >

1.H25 年度実証運行結果報告について

発言者	発言
委員	登録はどのように募ったのか。
事務局	区会長の説明、民生員の活動、市の広報誌などで行った。
委員	「おでかけなんじい」と同じように、「観光おまかせなんじい」の結果も、1日何便で何日運行したなどと詳細な説明があると良い。
事務局	「観光おまかせなんじい」は予約にかかわらず、1日5便運行している。期間中の運行本数について資料に記載する。
委員	実際のデマンド交通の利用は、想定よりも「多かった」、「少なかった」のどちらだと感じているか。
事務局	登録者数は、想定よりも早いペースで増えた。南城市は昼間人口が少ないため、多くの利用は望めないと考えていたが、日中の少ない時間でもお年寄りの利用がありよかった。
委員	平均的な走行キロのデータはあるか。
事務局	便数はあるが、距離のデータはない。
委員	労働条件等に関係するので、把握したほうが良い。
事務局	把握方法を検討する。
委員	公民館の利用者が多いが高齢者向けの何かあるのか。がんじゅう駅やおきなわワールドもあるが、市民と観光客の利用があるのか。
事務局	公民館は、サークルがある。がんじゅう駅・おきなわワールドは、市民が利用しているかは不明であるが、通勤での利用者もいた。
委員	登録で市民と観光と分けているので、観光か通勤など分ける必要があるので、集計も別でしたほうが良い。
事務局	市民と観光客と分けて整理する。
委員	4月は加入促進を行うとあるが、集計に反映されているか。また、登録者数は増えているのか。
事務局	集計は3月末時点であるが、4月以降のこの2ヶ月で200人以上登録が増えた。
委員	3割が外出の機会が増えたと結果があるが、外出の前回とサンプル数が違うので、次回、支払い意思額等も含め最終的なとりまとめが必要。

2.平成 26 年度の進め方について

発言者	発言
委員	「観光おまかせなんじい」の許認可は、どのようになるか。定期観光バスのような扱いになるのか。
委員	路線定期運行の一般乗合旅客自動車運送事業となる。
委員	南城市外の人なら、誰でも観光客となるのか。
事務局	市内を観光するのであれば、基本的に縛りはない。
委員	市内では 65 歳未満の人は利用できないが、車を持っていない人は利用できるが良い。
事務局	市内の交通手段は、市内・市外とも脆弱であるが、一気に進めるのではなく、まずはお年寄りの外出の機会を増やすのと、それから観光客と順を追って進めている。
委員	デマンド車両は、「おでかけなんじい」と「観光おまかせなんじい」で区分けはあるのか。
事務局	10 人乗り 1 台は、「観光おまかせなんじい」となる。残りの 10 人乗り 1 台と 8 人乗り 3 台が、「おでかけなんじい」になる。
委員	<p>現在、65 歳以上人口が約 9,000 人、うち登録者数が約 1,000 人、うち利用している人は 470 人というのは、高齢者の外出支援に資しているのか。</p> <p>前回、予約の仕方が分からないという意見があったので、登録や利用も実際に一緒にしてあげる等、独居や高齢夫婦の支援が必要である。本当に必要な人に利用できるシステムの確認が必要である。</p> <p>路線バスでさえ、30～40 年前に乗ったきりという人もいるので、民生員の方に協力をお願いして、イベントなど設けて試しに一緒に乗ってみるのも良いのではないか。</p>
事務局	もっと親切的な広報やレクチャーを強化する。また、必要な人が利用できるのかデータの取り方を工夫する。

3.有償実験計画の素案について

発言者	発言
委員	運行経費は市が負担するが、予想以上に収入があったり、逆に収入が少なかったりする場合には、誰が貰い、誰が負担するのか。
事務局	足りない部分は市が負担する。委託先とは概算契約になる。
委員	300 円は妥当か。那覇市内が 230 円なので一つの目安になるかと思うが。
事務局	支払意思額は 300 円には満たない。200 円では意思額から離れる。現金なので 10 円単位をなくしたい。まずは 300 円で実験したい。
委員	現金であれば、記録やエビデンスはどうなるのか。一括交付金であれば、会計検査があるはずだが対応できるのか。
事務局	システムが構築されており、誰がどこまで乗ったのかが記録される。
委員	H25 年では、いくらを経費がかかったのか。
事務局	1 ヶ月あたり 270 万かかった。
委員	ドライバーが、現金を扱うのか。路線バスではドライバーは現金を扱えないようになっている。
事務局	收受方法の詳細は受託業者との協議で決定する。
委員	現在使っている車両ではなくて、改めてリースをするのか。
事務局	現在は、レンタカーを利用しているが、緑ナンバーでの運用は出来ない。改めて緑ナンバー用の車両を用意する。
委員	「おでかけなんじい」も「観光おまかせなんじい」も、基本的には一般乗合事業である。使用する車両は緑ナンバーにするということで、保安基準もあるため、事前に相談してもらえれば調整したい。
委員	利用者アンケートはするのか。
事務局	実施予定である。
委員	経費について、270 万/月とざっくりとしたものではなく、システム・人件費・ガソリンなど細かく出すほうが良い。
事務局	いくらかかったか、細かい経費を報告する。

4.有償実験の公募について

発言者	発言
委員	選定基準の環境への配慮は、ハードルが高すぎないか。アイドリングストップだけで良いのでは。
事務局	(左の)細目は国交省のガイドラインである。南城市では、右側(アイドリングストップ)で進めていく。